

無農薬米を拡げたい!「ビオトーププロジェクト」

段階的に農薬を減らす取り組みをすすめています。



「有機の学校」で未来をつくる
NPOとくしま有機農業サポートセンター

農業従事者の平均年齢は66才、毎年数万人単位で減っていますが、新規就農者は有機農業に関心を持っています。有機栽培技術を身につけた新規就農者を育てることが、日本の農業の未来をつくります。「有機の学校」では1000人の有機農業者づくりをめざしています。



高品質・多収穫の米づくり
「有機の学校」稲作コース開設

BLOF(生態系調和型農業)理論により高品質・多収穫の無農薬米栽培技術が確立しました。植物が本来持つチカラを活用して、秋に稲わらや堆肥でしっかりと土づくりを行っておくことで病気や害虫に負けない元気な稲が育ちます。



環境を守るためにネオニコ排除

神経毒性のあるネオニコチノイド系農薬は田んぼの虫や小動物、そしてそれを食べる野鳥を死滅させてしまいます。ネオニコ排除栽培はいのちを育む農法です。

ネオニコビデオ(3:13)
米や野菜、果物を「ネオニコフリー」にすることから始めよう
<https://www.youtube.com/watch?v=i8JSXNPOXKQ>



生産者を支える+より安く
直接買い付け、中間マージンをカット

生産者を守るため、適正価格で購入することも生協の大切な役割です。無農薬・省農薬米を作ればコープ自然派が一般より高く買い、そして組合員さんにはできるだけ安く。これを実現するために中間の精米や保管管理を自ら行うことで中間コストを大きく削減しました。



Biotop Project

お米を食べてコウノトリを呼ぼう



sustainable environment

かつては日本中にいたコウノトリ。
産直米の田んぼでたくさんの生きものを育て
いのちが循環する自然を再生し、
もう一度、コウノトリも棲める環境を取り戻そうという
壮大なプロジェクトが始まっています。

2020年ビオトープ米プロジェクト開始!

ビオトープ米(ネオニコを減らすお米)の田んぼを拡げていのちの連鎖を復活させ、段階的に農薬を減らし、省農薬米へ、そして、いのち豊かな無農薬米へ。私たちの田んぼで当たり前のようにコウノトリが暮らし、やがて日本中に飛び立つことをめざし、「生きものを増やす」お米を拡げていきましょう。

【コウノトリも棲める環境づくり】

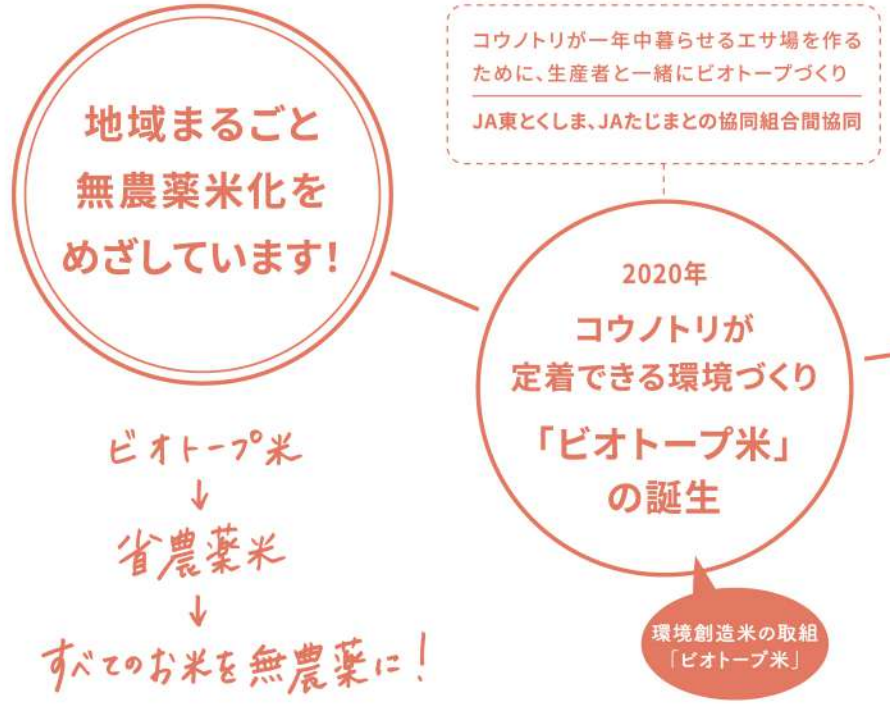
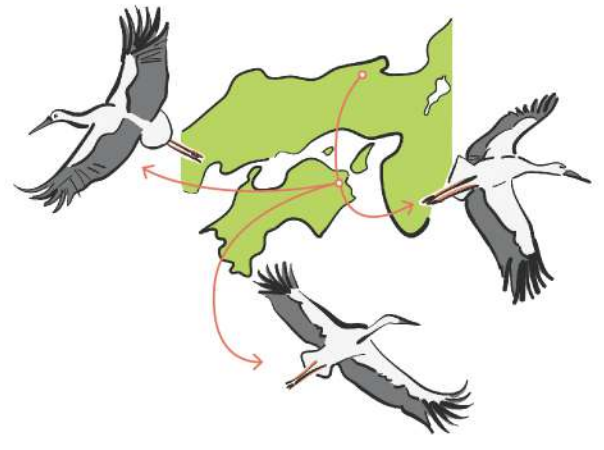
環境支払いカンパへの参加にご協力をお願いします。

コープ自然派が有機農業に取り組んで13年。農業のあり方が地域の自然環境・生態系を大きく変えます。コウノトリが定住できる環境を取り戻すため、冬水田んぼ、魚道の設置、ビオトープ作りなどの取り組みを組合員の皆様のご協力によって行っています。カンパへのご参加をお願いします。

商品案内「ポストイ」お米のページには
毎週<環境支払いカンパのお願い>が掲載されています。
商品番号/ 029896 1回カンパ
商品番号/ 029919 毎週カンパ ※一度登録で毎週お支払いいただくカンパ
各カンパの協力金は一口100円です。
※カンパ協力金はポイント対象外です。※寄附金控除の対象外です。

A history of Biotope rice

豊岡から来たコウノトリが
徳島から日本中へ!



生産者の努力と、組合員の皆さんの協力(買い支えるチカラ)により「ツルをよぶお米」の田んぼが拡がり、12年目を迎えた2019年度は当初の11倍約1,000tへ。

2018年~
鳴門で産まれた
コウノトリが
「ツルをよぶお米」の
田んぼにやってきた!

生きものたちの
チカラを借りる農法

無農薬米の
田んぼが
拡がった

BLOF理論により、
無農薬栽培技術が確立

2010年~
環境支払いカンパ
組合員の皆さんからのカン
パで、豊かな生態系を復活
させる冬水たんぼや魚道の
設置が拡がりました。

2011年から
オーガニックワーカー
養成講座がスタート

2008年
「ツルをよぶお米」
スタート

2007年
「有機の学校」
をつくる
プロジェクト開始

2009年
NPOとくしま
有機農業
サポートセンター
設立

2006年12月
有機農業推進法
成立



ごはん一杯から始まる未来をつくる物語を
「食べる」ことでみんなが拡げていきました!

コウノトリが当たり前にいる環境を取り戻すこと。
それがコープ自然派の願いです。



ビオトープ米で
コウノトリの郷づくり

豊岡市は日本で最後までコウノトリが生息していたまちです。高度経済成長にもない農薬や化学肥料が多用されるようになり、コウノトリが食べる田んぼや河川の生きものが減っていきました。また、農薬の影響を受け、最終的には生殖障害により卵を産んでもかえらず、1971年、日本の野生のコウノトリは絶滅してしまいました。

豊岡市ではコウノトリとともに生きる景色を取り戻そうと農薬や化学肥料に頼らない農法を広げ、いまでは野外で200羽以上のコウノトリが空を舞っています。

その昔、コウノトリは日本のいたるところで見られる鳥でした。コウノトリは1日に500~600gものエサを食べる大型の鳥。コウノトリも暮らすことのできる田んぼづくりは、いのち豊かな環境を取り戻すことなのです。

コープ自然派の
「国産派宣言」の出発点

コープ自然派の「国産派宣言」は、2006年6月、コウノトリの郷、豊岡市にコープ自然派の主だったメンバー100名が集結するところから始まります。田んぼの生きもの調査を行い、生きものを育む取り組みを学びます。また、いのちを育む有機農業の意義や魅力を知る機会となりました。その後、コープ自然派の各生協で田んぼの生きもの調査が行われ、その取り組み意義を深めていきました。

「国産派宣言」の目的は、農業を守り、お米を中心とする食文化を再生し、食と自然環境を守っていくことです。食と農と環境は一体。安全な食べものを食べることが、多様な生きものの棲息の場であり、私たちの大切な食生産の場である森・川・海の循環を守ります。